

気象災害から命を守るために気象警報が生まれ変わります！！

平成26年に広島市で発生した土砂災害や平成27年の関東・東北豪雨、道内においても平成28年には相次いで接近・上陸した台風等の大雨による各地の土砂災害、洪水害、浸水害など、日本は毎年のように大雨による災害に見舞われています。

このような状況を踏まえて、気象庁では、さらなる防災・減災対策の取り組みとして、気象警報等、防災情報を改善していきます。

1. 「警報級の可能性」

例えば台風の接近時など、現時点ではさほど荒れていなくても、警報を発表するような悪天候が予測された場合には、5日先までの警報発表の可能性を〔高〕・〔中〕の2段階で発表し、色分けした図表を用いることで、一目で分かるようにします（図1）。

平成〇〇年10月4日17時00分 ××地方気象台発表

××県の警報級の可能性

南部では、5日までの期間内に、大雨、暴風、波浪警報を発表する可能性が高い。

種別	警報級の可能性							
	4日		5日		6日	7日	8日	9日
	明け方まで	朝～夜遅く	明け方まで	朝～夜遅く				
大雨	18-6		6-24		-	-	-	[中]
大雪	-		-		-	-	-	-
暴風(暴風雪)	[高]		[高]		-	-	-	-
波浪	[高]		[高]		-	-	-	-

[高]: 警報発表中、又は、警報を発表するような現象発生の可能性が高い状況。

[中]: [高]ほど可能性が高くはないが、警報を発表するような現象発生の可能性がある状況。

(図1) 5日先までの警報級の可能性を色分けした図表

2. 「危険度を色分けした時系列」

これまでは文章のみで発表されていた気象警報・注意報を、一目で分かるように危険度を時間ごとに色分けした図表で表示します。

例えば、図2のように夕方を中心に注意報が発表され、夜には警報が発表されるような大雨や暴風となって、夜間から早朝に特別警報を発表する可能性があるような場合に、危険度が高まる時間帯が視覚的に分かりやすくなります。

(図2) 危険度が高まる時間帯を時系列に色分けした図表

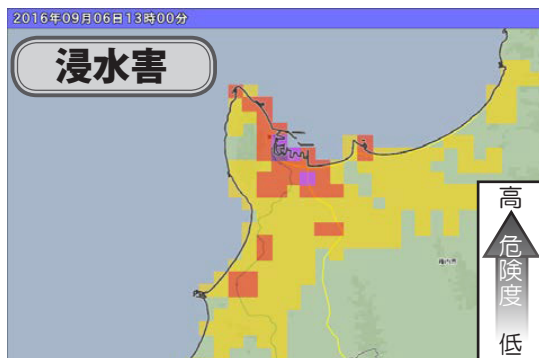
警報・注意報の種別	今後の推移 (特別警報級 警報級 注意報級)										備考・関連する現象
	4日		5日		6日		7日		8日		
大雨 (浸水害)	40	50	70	110	110	70	50	30	30		以後も注意報級 浸水害続
土砂災害											以後も警報級 土砂災害続
洪水 (洪水害)											以後も注意報級 氾濫
暴風 (暴風)	陸上	海上									以後も注意報級
波浪	4.0	6.0	8.0	11.0	11.0	6.0	6.0	4.0	3.0		うねり
高潮	0.7	0.7	1.5	4.0	4.0	3.0	2.0	1.5			ピークは5日3時頃
霧											竜巻

【各種別についての凡例】

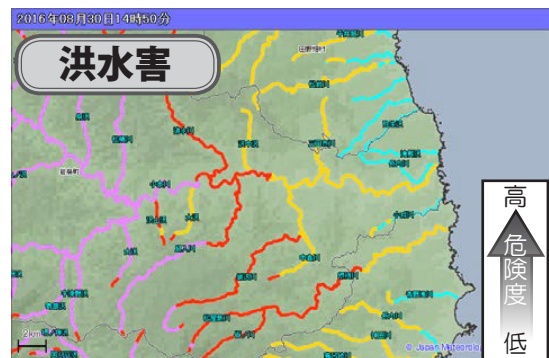
- 特別警報
- 警報
- 注意報
- 以後特別警報に切り替える可能性が高い警報
- 以後特別警報に切り替える可能性が高い注意報
- 以後注意報に切り替える可能性が高い注意報

3. 命を守るための「危険度分布」の予測の提供開始 (本年7月上旬～)

大雨・洪水警報が発表されたときに、どこで実際に危険度が高まっているのかを地図上に色分け表示します（図3、4）。例えば、「洪水警報の危険度分布」（図4）では、実際に水位が上昇するより早い段階で、中小河川の急激な増水による危険度の高まりを確認できるようになります。



(図3) 大雨警報 (浸水害) の危険度分布



(図4) 洪水警報の危険度分布

これらの改善した情報は気象庁ホームページでご覧いただけるようになります。警報・注意報等が発表された時には、いつ・どこで災害発生の危険度が高まると予想されているのかをご確認いただき、安全確保のための早めの行動を心がけてください。

◆問合せ 札幌管区気象台天気相談所 ☎011-611-0170

余市町の空間放射線量率の状況

空間放射線量率は「平常レベル」でした

- ◆測定日：4月21日～5月23日
- ◆最高値：43 nGy/h
- ◆最低値：37 nGy/h
- ◆平均値：38 nGy/h

※直近の測定結果については、町ホームページでご覧いただけます。

私たちは日常的に自然界から微量の放射線を浴びています。平常時に測定される「空間放射線量率」は10～60ナノグレイ毎時 (nGy/h) 程度で、雨が降ると一時的に上昇する場合があります。

地域協働推進課 ☎21-2142